

GLP - 1 製剤の内視鏡および術前休薬の必要性について

GLP-1 製剤（GLP-1 受容体作動薬、GIP/GLP-1 受容体作動薬）は、糖尿病治療薬、肥満症治療薬として使用されており、当院でも使用患者が増加しています。

この製剤には胃内容物の排出を遅らせる作用があり、満腹感を長く続けることで食べすぎを防ぐことが知られています。そのため、内視鏡検査や手術前に通常どおり絶食していても、胃の中に食物が残っている可能性があります。麻酔・鎮静中には嚥下反射が止まるため、胃の内容物があるとそれが逆流して誤嚥性肺炎につながるおそれがあり注意が必要です。このため、内視鏡検査や手術を予定している患者では、GLP - 1 製剤の使用状況を事前に確認することが重要です。

今回、当院における GLP-1 製剤の内視鏡前・手術前の休薬について一覧にまとめましたので、処方薬・持参薬確認時にご活用ください。なお、肥満症治療目的で自費診療により使用している場合など、お薬手帳に記載されていないこともあります。薬歴だけでなく、患者さん本人にも使用の有無を確認するようにしてください。

GLP-1 製剤の休薬期間

【休薬ルール】

製品名	一般名	投与経路	投与頻度	最終投与から処置・手術日までの休薬期間
ウゴービ オゼンピック	セマグルチド	皮下注	週 1 回	7 日以上※
マンジャロ ゼップバウンド	チルゼパチド	皮下注	週 1 回	7 日以上
トルリシティ	デュラグルチド	皮下注	週 1 回	7 日以上
ビクトーザ (2026 年後半販売終了)	リラグルチド	皮下注	1 日 1 回	当日朝休薬
リベルサス	セマグルチド	経口	1 日 1 回	当日朝休薬

※上記休薬期間（当院規定）は休薬による血糖への影響も考慮しており、胃内容物の排出遅延効果がなくなる期間を示すものではありません。

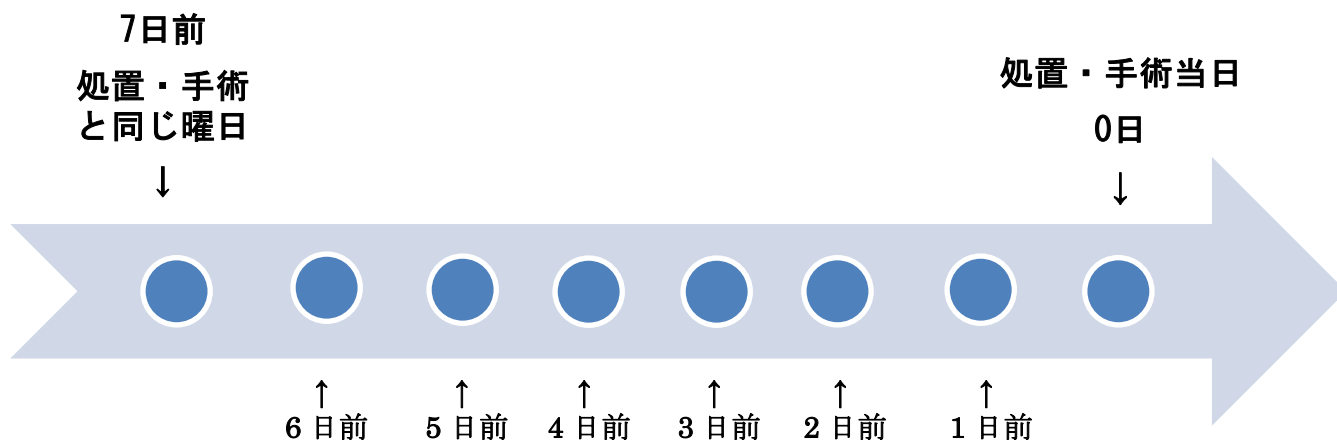
ー今月号の目次ー

<今月のトピック>

GLP - 1 製剤の内視鏡および術前休薬の必要性について	P. 1-2
内視鏡時の抗血栓薬の休薬期間の統一について（付表あり）	P. 2
院外処方箋の検査値 項目変更：T-bil→eGFR	P. 3
改訂のお知らせ 腎機能別抗菌薬投与量（2026. 8）	P. 3

< D I 情報 >	P. 3-4
------------	--------

【休薬期間 7 日前の考え方】 手術当日を 0 日とします。



内視鏡時の抗血栓薬の休薬期間の統一について

消化器内視鏡検査時における抗血栓薬の休薬については、一部の抗血小板薬について「3～5 日前」「5～7 日前」など休薬期間に幅を設けていますが、診療科・医師によって休薬日数の判断が異なる場合があります。患者への説明や休薬指示が統一されにくい状況があります。このため、休薬に伴う血栓塞栓症リスクにも配慮し、不要な長期休薬を避け、院内での休薬指示を明確化することを目的として、休薬期間を見直しました。

成分名	現状	今後
・バイアスピリン (血栓塞栓症リスク低く、胃瘻造設時)	3～5 日前から休薬	5 日前から休薬 (※)
・チクロピジン ・クロピドグレル ・プラスグレル (血栓塞栓症リスクが低い場合)	5～7 日前から休薬	5 日前から休薬
・コンビプラン (クロピドグレル+アスピリン合剤)	5～7 日前から当日まで 休薬+アスピリン置換	5 日前から当日まで 休薬+アスピリン置換

※バイアスピリンは緊急時等には従来どおり 3 日前からの休薬も可。

院外処方箋の検査値 eGFR 表示開始

9 月より院外処方箋の〈検体検査結果〉の項目が変わります。

- ・新たに今後表記する検査項目；eGFR（標準化 eGFR）
- ・今後は表記されない検査項目；総ビリルビン

《院外薬局の皆様へ》

院外処方箋には体表面積も記載されていますので、標準化 eGFR、個別化 eGFR（体表面積未補正值）として薬物投与量確認時にご活用ください。宜しくお願いいたします。

～改訂のお知らせ～ 腎機能別抗菌薬投与量（2026. 8）

【主な改訂内容】（変更は下線＋赤字）

- ・採用薬・採用規格の変更
- ・使用実態に合わせた変更
- ・抗菌薬の使用量変更
（例；オーグメンチン、サワシリン、透析患者への投与）
- ・セフトジジム溶解方法の追記
- ・薬価の更新

DI 情報

【副作用報告】 DI 委員会 7 月報告より

No	被疑薬	副作用名	グレード	評価	院所
1	ツムラ抑肝散	偽アルドステロン症	3	重篤	熊谷
2	リベルサス	嘔気	1	非重篤	さいわい

【気になる事例の紹介～プレアボイド報告より～】 DI 委員会 7 月報告より

薬剤名	経過・内容
テオロン錠	テオフィリンの血中濃度高値によりテオロンが減量となった。 →採血前の当日朝もテオロンを服用していることを確認し、評価の基準となるトラフ値ではないことを医師へ情報提供した。喘息発作を起こしやすい患者であることも踏まえ、減量はせず従来量の継続となった。 ※テオロンの最高血中濃度は服用後約 5 時間。テオフィリンは、服薬時刻と採血時刻を確認して評価する必要があります。
マグミット錠 トラマドール	マグミット錠 750mg 分 3 継続中に軟便となった。直近でトアラセットからアセトアミノフェンに変更していた。 →トラマドール中止によりオピオイド誘発性便秘の改善が見込まれ、軟便も認められていたため、マグミットの減量・中止を提案し、中止となった。

【採用薬変更のお知らせ】（県連薬事委員会 7 月報告より）

●販売中止に伴う採用医薬品変更

- ・ドネペジル塩酸塩 OD 錠 3mg/5mg/10mg 「日医工」（認知症治療剤：日医工）25.2 円/5mg 錠
[採用削除：ドネペジル塩酸塩錠 3mg/5mg/10mg 「日医工」（日医工）] 25.2 円/5mg 錠
- ・マキサカルシトール静注透析用 2.5 μ g/5 μ g 「トーワ」（二次性副甲状腺機能亢進症治療剤）255 円/5 μ gA
[採用削除：マキサカルシトール静注透析用 2.5 μ g/5 μ g 「ニプロ」] 265 円/5 μ gA

●販売中止に伴う採用医薬品規格変更

- ・リンデロン-V 軟膏/クリーム 0.12%（5g/本）
（皮膚外用合成副腎皮質ホルモン・抗生物質配合剤：塩野義）27.7 円/g
[採用削除：リンデロン-V 軟膏/クリーム 0.12%（10g/本）] 27.7 円/g

●後発医薬品への採用医薬品変更

- ・エンペラシン配合錠（副腎皮質ホルモン・抗ヒスタミン配合剤：沢井製薬）6.3 円/錠
[採用削除：セレスタミン配合錠（高田製薬）] 7.2 円/錠

●採用医薬品の規格変更

- ・ランジオロール塩酸塩点滴静注用 150mg 「F」（短時間作用型 β 1 選択的遮断剤：富士製薬工業）4530 円/V
[採用削除：ランジオロール塩酸塩点滴静注用 50mg 「F」（富士製薬工業）] 1759 円/V

●他社製品への採用医薬品変更

- ・クラフォラン注射用 1g（セフェム系抗生物質：サノフィ株式会社）497 円/V
[採用削除：セフトアックス注射用 1g（日医工）] 799 円/V
- ・アルプロスタジル注 10 μ g シリンジ「TW」（プロスタグランジン E1 製剤：東和薬品）988 円/本
[採用削除：アルプロスタジル注 10 μ g シリンジ「サワイ」]（沢井製薬）988 円/本

●新規試用申請

<協同・循環器科>

- ・プラスグレル錠 3.75mg 「トーワ」（抗血小板剤：東和薬品）118.2 円/錠
- ・ケレンディア錠 10mg/20mg（非ステロイド型選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬）142.2 円/10mg 錠

●後発医薬品への試用医薬品変更提案

- ・ビラスチン錠 20mg 「サワイ」（アレルギー性疾患治療剤：沢井製薬）17.7 円/錠
[試用取消：ビラノア錠 20mg/OD 錠 20mg（大鵬薬品工業）] 44.8 円/OD 錠
- ・ラコサミド点滴静注用 100mg 「日新」（抗てんかん剤：日新製薬）1052 円/A
[試用取消：ビムパット点滴静注 100mg（第一三共）] 2450 円/V

情報の提供・お問い合わせは、埼玉協同病院・ふれあい生協病院 薬剤科 DI 室

（代表）0570-00-4771 ままでどうぞ

担当 寺倉・中村・木村・若林